

●最優秀賞

地域を愛する心を育み、 自信や良さの伸長を図る 魅力ある授業づくり

兵庫県篠山市立大山小学校

さかいたつや
酒井達哉



はじめに

下の文章は、平成 18 年 3 月 13 日に大山宮地区公民館で、5 年生が地域の方々を招いて開いた「大山の自然環境フェスタ」について、鳴門教育大学の村川雅弘教授が書かれたものである。当日、コメンテーターとしてお招きしていたのだが、これは、児童の 1 年にわたる学習活動の集大成を見て頂いた方々を代表する思いとも言える。

100 人ほど収容の会場を埋めつくした保護者や地域の方は 12 人の子どもたちに圧倒された。彼らが関わってきた、大山の絶滅しかかった動植物を守り、育てたいという熱き思いがずんずん伝わってきた。12 人の息がぴったり合いながらも一人一人の個性が光る。4 チームの発表の後、自ら作詞作曲した「アズマイチゲ」（＝大山に咲く花の名前）を合唱した。そのあたりから大人たちは、みな目をはらし通しだった。最後には一人ひとりがこの 1 年間の自分の成長を語り始めた。声を出す前に友だちの話に感動したのか、感極まって泣く子どもたち。絞り出すような声で、しかし、はっきり伝わる声で思いを語った。涙でかすむ目には彼らがアズマイチゲの妖精に映った。

＜一部抜粋＞

この文章の場面で、児童は舞台の上で自分と友達の成長に感動して泣いた。その時の様子がある児童は作文で次のように書いている。「達成感の涙、伝わってよかったという涙、ほっとした

涙。数え切れないほどの思い出が心の中をかけ回って涙が止まりませんでした。今までみんなで力を合わせ、一つ一つ壁を乗り越えてきて本当によかったです。」

このフェスタまでの道のりの中で、児童は自分に自信を持ち、さらに自分の良さも伸ばしてきた。1 年の学習活動のゴールを児童と地域の方々が共に感動できるものにし、しかも、児童を大きく成長させることにつながった指導の手だてを、本実践記録にまとめることで整理したい。

1. 地域の特徴を生かしたカリキュラムの 構想（全 70 時間）

総合的な学習の時間をより充実したものにするためには、その学習を通して児童にどのような力をつけるのかという視点が大切である。私は毎年、児童の実態をもとに、まず、児童につけたい力をはっきりとさせてから、地域の特徴を生かしてカリキュラムを構成している。＜資料 1 参照＞その中では、特に、学びの成果を地域に発信するまでの過程で、一般的に弱いとされる表現力（話す力・書く力等）を高めるようにしている。

（1）魅力ある地域教材を活用して

本校がある大山地区は兵庫県南東部に位置し、「山よ 緑よ ふるさとよ」のキャッチフレーズを持つ、美しい山林が広がる地域である。また、

大山の自然環境フェスタを開こう

【1学期】

全体学習 地域の動植物を調査しよう

～県立丹波並木道中央公園で希少な動植物の調査をしよう～

- (1) エビネなどの分布を調査し、県の今後の計画に反映させる。
- (2) セツブンソウの種子を採集し、栽培に挑戦する。

グループ・個人学習

いのちのまほろば 大山小版2006

～6つのグループに分かれて地域の希少な動植物を育てよう～

- ①セツブンソウ ②カスミサンショウウオ
- ③モリアオガエル ④メダカ ⑤ヒラタクワガタ
- ⑥オオクワガタ

- (1) 国語科「ニュースを伝え合おう」に生かすため、生態や自生地を調べたり、観察記録を映像でとったりしておく。

【2学期】

全体学習 大山の自然を守る活動をPRしよう

～プロジェクトをスタッフに分かれて企画し、学年で実行しよう～

- プロジェクトA… カブトムシを地域の方々にプレゼントしよう。
- プロジェクトB… 丹波並木道中央公園にビオトープを造ろう。
- プロジェクトC… 「エビネの無菌播種実習」を成功させよう。
- プロジェクトD… 大山の生き物レッドリストを作成しよう。

グループ・個人学習

～国語科と関連させて、フェスタの発表原稿を作成しよう～

- (1) プロジェクトのグループに分かれて、動画・静止画を交えた「ニュース番組」の発表原稿（8分間）を作成する。
- (2) グループで相互批評・外部評価を生かして、表現力の向上を目指して、発表練習を行う。
- (3) 県立丹波並木道中央公園で地域の方々に学習成果を発表する。

【3学期】

全体学習 「大山の自然環境フェスタ」を開催しよう

～大山宮地区公民館に地域の方々を招き、大山の自然の素晴らしさや自然を守る大切さを伝えよう～

- (1) 5年生がガイドを務める自然観察会を計画する。
- (2) スタッフに分かれてフェスタの開催準備を進める。
- (3) 福岡県の先生方に事前に外部評価を頂き、練習の指針にする。



●写真1／地域のシンボル アズマイチゲ

(2) 重点的につけたい力を設定する

平成18年度5年生は明るく素直で思いやりのある子が多い。だが、次のような学年としての課題が挙げられ、総合的な学習の時間を通して改善を図っていくことにした。

- ・ 地域や自然に関心が薄い。
- ・ 自分に自信が持てず、発表する機会を避けようとする。
- ・ 高い目標を設定し、努力を積み重ねることが苦手である。

そこで、上記の課題を本校の総合的な学習の時間の評価規準と照らし合わせ、身につけたい力として、表現力の育成を核とした3点の重点項目を設定した。

○体験的な学習を通して地域や人と関わる力をつける。

○考えや思いを人に伝える力を高める。

○自分に対する自信を持つ。

(3) 最終目標は「大山の自然環境フェスタ」の開催

本校では5年生のテーマは自然を扱うことになっている。まず、地域に自生する希少な植物が乱獲等で減少しているという現実から、地域の方々に大山の自然環境の素晴らしさと、それを守ることの大切さを伝える場の設定が、希少な草花を含む大山の自然を守る上で必要であると児童と話し合った。そこで、上記の重点項目にも留意して、3月に希少な草花の自生地のある大

●資料1／年間カリキュラム(概要)

国の天然記念物に指定される「千年モミ」の周辺には希少な草花の自生地が広がり、県内外から多くの愛好家が訪れる。その中のアズマイチゲの群落が篠山市の天然記念物の指定を受けたこともあり、地域の方々は、その自生地を有することに誇りをもち、静かに見守られてきた。しかし、近年の山野草ブームで相次ぐ乱獲やマナーに違反する行為に胸を痛められている。

山宮地区公民館に地域の方々を招き、「大山の自然環境フェスタ」を開催することを学びの最終目標としたカリキュラムを構成した。また、先進校の自然に関する学びの情報発信例を映像等で紹介し、学習活動の見通しを持たせた。

その年間カリキュラムの中では、「大山の自然を守る」という共通テーマのもとグループや個人で取り組む具体的なテーマや表現活動の演出プラン等は児童自身に立てさせることにした。また、学習の進行状況によって柔軟にカリキュラムの修正を行った。

(4) 道徳と関連させて目的意識を明確に

年間を通した児童の学習に「地域の素晴らしき自然を守るため」という目的意識を明確に持たせ、意欲的に活動を行う動機付けを図るために、下のような郷土愛を育む道徳の授業を行った。

授業では、大山に美しく咲き誇る希少な草花の写真と乱獲された後の2つの写真を見比べさせて、その変化の大きさを視覚的に捉えさせ、人の身勝手さや地域の方々の心の痛みについて考えさせた。自生地を守る活動の様子については、雪の中で整備作業を懸命に行う地域の方々の活動の大変さを写真で実感させた上で、実際に活動に取り組まれている地域の方に自然保護

	学習活動と子どもの心の動き	指導の手だて・評価(◆)
つかむ	1. 大山宮地区に咲く草花の写真を見る。 ・セツブンソウ、ユキワリイチゲ、ニリンソウなど	○草花の写真を見せることにより、総合的な学習の時間に大山地区の自然の素晴らしさに出会ってきた体験を想起させる。
みとおす	2. 大山宮地区のアズマイチゲの群落が篠山市の天然記念物に指定されている理由を知る。 3. 希少な植物が数多く自生している大山宮地区に住む人々の気持ちを考える。 ・遠方からも訪れる観光客 大山宮地区の方々は草花の自生地のことをどのように思っているのでしょうか。	○兵庫県下でも、ここまでの大きな群落はなく大変貴重なものであることを伝える研究者のビデオレターを見せる。 ○説明板の写真から、地域の人々が草花を地域の誇りだと考え、大切に思っておられる気持ちに気づかせる。
せまる	4. 大山宮地区の草花の自生地に関する課題について話し合う。 (1) 自生地を荒らす人の心を考える。 ※少しぐらいとっても構わない。 ※自分だけのものにしたい。 ※珍しいと聞けば欲しくなる。 (2) ロープや看板などで自生地を保全する地区の方々の気持ちを考える。 雪の降る中、どんな思いで大山宮地区の方々は作業をされているのでしょうか。 ※このままでは貴重な自生地がなくなってしまう。 なんとかしなければ。 (3) 保全活動に関わられた大山宮地区の住民の話を聞く。 ※マナーを伝えて、観光客と一緒に大山の自然の素晴らしさを味わいたい。	○心ない人のせいで自生地が荒れている写真を見せる。 ○自生地を荒らす人の気持ちを考えることから、自分たちの生活も照らし合わせて、「人の持つ弱い心」について話し合わせる。 ○整備されている写真や資料から地域の方々の自然を大切にしようとする思いを考える。
ふりかえる	5. 大山の自然を守るため5年生にもできることを話しあう。 大山の自然を守るために私たちにできることはどんなことでしょうか。 ※発表会で大山の自然の素晴らしさや動植物の絶滅の危険性を分かりやすく伝える。 6. アズマイチゲの群落の写真を見る。	○総合的な学習の時間を中心とした今後の計画と関連させて考えさせる。 ○ワークシートに書かせることにより考えをまとめさせる。 ○保全活動をされている方の話を聞くことで地域に対する熱い思いにふれさせ、さらに知りたいことは質問をさせる。 ◆地域の方々に自然の素晴らしさを伝える発表会に向けての目的意識を持たせる。 ◆地域の方々と総合に取り組む自分とを重ねて感じる事ができたか。 ○天然記念物のアズマイチゲが美しく咲き誇る写真を見せ、3月に地域の方々と一緒に見に行くことを伝える。

●資料2／地域教材を活用した道徳授業の展開例

に対する思いを話していただいた。

この地域教材を活用した道徳の授業は、大山の自然を守るために自分達にできることを考え、地域への思いを育む原動力となった。

(5) 大切にしたい5つの意識

学習活動を展開していく上で、特に表現に関する学習では前述の目的意識に加え、次の意識も明確に持って学習活動を進めていくことの大切さを折に触れて指導した。

＜例：大山の自然環境フェスタの成功に向けて＞

- ① 目的意識…大山の素晴らしい自然を大切に思う気持ちを伝える。
- ② 相手意識…地域住民、行政、関係機関の方々
- ③ 場面意識…約100人収容の篠山市大山宮地区公民館
- ④ 方法意識…効果的に表現を工夫し、パワーポイント（静止画、動画）を活用する。
- ⑤ 評価意識…前時までの自己評価、相互評価、外部評価を生かす。

2. 感動を伴う体験を通して学びの動機付けを図る

感動的な体験を通して醸成された課題意識は、その後の学習の展開に当たって確かな推進力になる。そこで、地域を学びの場として希少な動植物を育てる学習を通し、小さな生き物に対する愛情を深めるとともに絶滅の危機が迫っていることを実感させ、それらを守るためには何がで



●写真2／美しいエビネの群生に感動する

きるのかを考え実行する学習活動を春から進めた。

(1) いのちの美しさや神秘性にふれて

児童の興味・関心に基づいてカスミサンショウウオなど6つの班に分かれて地域の希少な動植物を卵や種から育てる活動を行った。児童が選んだ動植物は、地域で絶滅が心配される希少種である。ここでは体験的な学習のみにとどまらず、3月のフェスタでの発表内容や方法も想定させて、静止画や動画等で成長記録や活動記録を残したり、生息地の調査や専門家へのインタビューを行わせたりと問題解決的な学習につながるように留意した。

＜活動例 ヒラタクワガタ班＞

ヒラタクワガタは子供に人気のある大型のクワガタであるが、篠山市では環境の変化等により数を減らしている。この班は、篠山のヒラタクワガタを卵から育てることに挑戦した。産卵に成功してから、孵化した幼虫が食べるおがくずを数ヶ月ごとに入れ替える等の世話を続けて、ついにさなぎに、そして、2週間後、無事に羽化させることができた。児童は神秘的な羽化の瞬間を息をこらして見守っていた。なお、羽化した成虫は篠山の自然に帰してやった。

(2) バイオテクノロジーの力で絶滅から守る

地域の希少動植物を守る活動を継続して本格的に行うためには、小学生の力だけでは限界



●写真3／神秘的なヒラタクワガタの変身

があり、研究者との連携が必然となる。そこで、理科の単元「植物の発芽と成長」と関連させて、前兵庫県立大学教授の永吉照人先生の指導を受け、バイオテクノロジーを生かした「無菌播種実習」を行い、児童が地域の山で発見した、絶滅の心配のある草花、エビネの増殖に挑戦した。

児童は無菌播種実習の意義や方法等について、事前に十分に調べてから実習に臨んだ。実習中、児童は息を止めてバーナーで殺菌したメスでさやを切り、栄養の入った瓶の中にエビネの種を入れた。緊張のあまりメスを持つ手が、がたがた震える子も多かったが、全神経を集中させて取り組む姿に、自分達の力でエビネを守りたいという使命感を感じた。



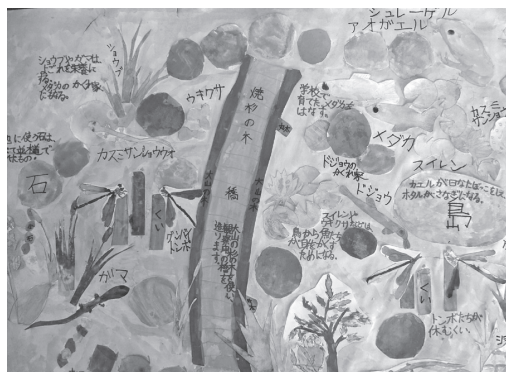
●写真4／エビネの無菌播種実習に挑戦

3. 行政と連携して小学生にもできる 社会的貢献を ～ビオトーププロジェクト～

児童は、地域に開園する県立丹波並木道中央公園へ生き物の調査に、春から毎月、出かけた。翌年の開園に向けて小学生としても役に立ちたいと考えたからである。そこでは、前述のエビネの群落やモリアオガエル等の多くの貴重な動植物を発見し、それらが工事によってすみかを追われていることを県に報告した。この活動を通して、児童は公園内に生き物が安心してすみ、来場者が生き物を観察できるビオトープを造る必要を強く感じた。

(1) 情報を集め、設計図を仕上げる

まず、半年をかけた事前調査で山水がいつもしみ出している細い溝を見つけ、大雨の日や渇水の時期でも水の量が安定していることを確認し、そこをビオトープの場所に決めた。続いて設計では、インターネット等で集めた情報をもとに、現地での生き物調査の結果を生かして下のような設計図を作った。池の周りは公園内で掘り出した石で囲み、山側には浅瀬をつくりカスミサンショウウオの産卵場にする等、児童は次々と多くの工夫を考えて書き込んでいった。



●写真5／ビオトープの設計図

(2) 泥まみれになって、ビオトープの 一次工事を完了

設計図をもとに工事を始めたが、池を掘ることは小学生の力だけでは無理なので、兵庫県柏原土木事務所に協力していただいて重機で溝を広げた。次に池の周りを石で囲む作業を行ったが、石がくずれないように固定することがとても大変だった。水が冷たくて手がしびれ、長靴の中にも水が入ってきて児童は大騒ぎだったが、懸命にショウブを移植したり、杭や流木を打ち込む等の作業を続けた。さらに、アルミ缶のリサイクル活動の収益金で買ったクヌギの苗を3本、ビオトープのほとりに植えた。将来、そのクヌギの木にモリアオガエルが産卵し、カブトムシが樹液を吸いにきてほしいと願ったからである。服や手足は泥まみれになったが、一次工事が完成した時の児童は、力を合わせてやりとげたという満足感あふれる顔をしていた。



●写真 6 / 難航した石垣積み

4. 外部評価を生かして表現力を高める

11月下旬には、県立丹波並木道中央公園の開園イベントで、学習の成果を地域の方々に対して発表する場を設定した。また、2月には福岡県から授業を参観に来られた先生方に、大人の視点から児童の表現に対する外部評価を頂くことにした。それは、学校外での発表に慣れさせるとともに、児童の表現に対する外部評価をもとに、表現内容や方法を何度も練り直していく学びが、3月のフェスタの成功につながると考えたからである。

(1) 国語科と関連させて発表原稿を作成

国語科の単元「ニュースを伝え合おう」と関連させた作文指導の中で、プロジェクトごとの4つの班に分かれて発表原稿を作成した。発表時間は1班8分程度とし、パワーポイントの静止画と動画に合わせた発表を基本パターンとした。さらに、会場との双方向性をより高めるために、その内容に関する4択クイズを入れることにした。

<発表原稿の例>

私達のチームの目標は、今年の秋にオープンする「県立丹波並木道中央公園」のシンボルである絶滅の心配のある植物、エビネを守る活動を企画・実行することです。私達は公園の生き物の調査に、春から毎月、出かけました。小学生の私達も公園のオープンに向けて何かお役に立ちたいと思ったからです。ここでは、ミヤコカンアオイやシュレーゲルアオガエルなど多くのめずらしい動植物が見つかりました。

その中でも私達の大発見は、山の中でエビネの群生を見つけたことです。この花は山野草の愛好家に大変人気があり、昔は山の中でも普通に見られた草花でしたが、乱獲や開発により今では、この大山でさえほとんど見られなくなってしまいました。5月11日、私達はエビネを探して山の中を歩き続けていました。疲れて足はもう棒のようです。しかし、緑色の谷の向こうにうす紫色のかたまりが見えました。エビネです。かけ寄るとそれは36株もの群生でした。私達は、その美しさに思わず見とれてしまいました。(以下略)

(2) 表現の工夫の観点を明確にする

表現力を高めるため、「聞き手を見て感情豊かに話す」等の表現の工夫の観点を難易度によって3点ずつ3つのステージに分けて設定した。そして、班ごとに次のステージに進むためには、表現の観点に基づく教師の評価で80%以上に到達しなければならないという「壁」を作った。客観的に自分たちの表現を分析させるため、ビデオでのチェックや鏡の前での練習、保護者から助言を得る等の手立てを行った。リーダーを中心に班ごとに話し合い、何度もテストに挑戦し、一つのステージに合格するごとにチームワークも高まっていった。

(3) 外部評価を整理し、改善点を明らかにする

2月には福岡県から視察研修に来られた34名の教頭先生方に本番1ヶ月前での発表を見ていただいた。発表後の先生方のアンケート項目

「自然を大切にすることがよく伝わったか」で80%以上が「はい」ならば成功と設定し、児童はそれを目標に練習に励んだ。結果は95%の先生が「よく伝わった」と答えていただき、児童はこの発表を通して少しずつ自分達に自信を持ち始めた。

その後、児童は先生方に書いていただいたアンケートを整理し、表現力に対する評価（内容面・方法面）のよかったところと改善点をパソコンでまとめた。ビデオ映像と合わせて見ると、発表内容、表現方法ともにフェスタ本番に向けての改善点が一層、明らかになった。

福岡の教頭先生34名からの「外部評価」

1. わかりにくかったところ

<表現面>

●動作化・パフォーマンス

・表現する動作もより大きく。また、その様子が分かるような表情をする場合は実際に自分達がやった事を伝えるような動作（おしぼい）をすることが見る者に感動を与えたいと思います。（例えば、重い物を持つ時は、本当に重い物を持っているように。）

・両手を広げる動きが多すぎますね！両手を広げるのを「大きい」「たくさん」位で十分かも知れませんが、多すぎると少しかっこ良くないかも。一斉に両手を大きく広げたり回したりする今の動作を列ごとに時間差を付けてやってみたらどうでしょう。他の人が発表者を見る体型も面白いかもしれません。

●気持ちをこめる

・相手意識（だれに伝えたいのか、教えてあげたいか）の気持ちを大切にしていってほしい。

・活動の中で、感動したことを思いっきり出せるように頑張ってください。

・絶滅危惧にある動植物を愛しむ気持ちはよくわかりますが、そのことをもって伝えるように表現できたら聞く人に説得力ある発表になるのではないのでしょうか。

●間の取り方

・間が短くて聞きとりにくいところがあったよ。

・言葉の「間」とり方が違うので単語の意味が理解しにくい所があります。

●資料3／項目ごとに整理された外部評価（一部抜粋）

5. 感動の涙に包まれた

「大山の自然環境フェスタ」

（1）相互批評で切磋琢磨して

フェスタは、学習の成果発表と児童がガイドを務める自然観察会の2部構成とした。表現力を高める最終段階の手立てとしては、4つの班を人数構成が似通った2組ずつのペアにして、お互いの表現方法について助言し合う相互批評の手法を取り入れた。時には厳しい指摘も飛び交う中、児童は励まし合い、切磋琢磨することで表現力を高めていった。

私のチームは最後のステージを突破しました。私は、なぜ合格できたのかを考えました。それは、まず、「表情」ができるようになったからです。私は前まで一番、表情が苦手でした。でも、私はみんなと注意し合いながらいっぱい練習したし、頭の中に大山の自然の中で体験を思い浮かべながら、家の鏡の前でも、すごく練習しました。それで、エビネチームは合格したと思いました。二つ目は、エビネを発見した時のパフォーマンスがうまくいったからだと思います。初めてやった時は、とてもはずかしかったです。でも、「はずかしがってやっている方がはずかしい」と思って堂々とやりました。それで最後のステージが突破できたと思いました。私は先生から合格と言われたとき、うれしくてチームのAさんと抱き合って泣きました。いよいよフェスタです。

<振り返り作文より抜粋>

（2）学んだことを自信をもって伝える喜び

フェスタの日を児童は大きな緊張をもって迎えた。平日に関わらず、約100人の地域の方々が会場に詰めかけていた。

班ごとの発表が始まった。舞台の上には友達と「大山の自然を守りたい」という思いを懸命に伝えようとする児童の姿があった。大きくはっきりした声、豊かな表情、体いっぱい使った表現で見る人を魅了していった。エンディングの群読が始まり、テーマソングの「アズマイチゲ」が歌われるころ、5年生の心はさらに一つにまとまり、学んだことを伝える喜びに、学びのゴールに、



●写真7／大山の自然環境フェスタの様子

感極まって涙ながらに思いを伝える児童の姿が見られた。客席でも児童の熱い思いに引き込まれ涙ぐむ参観者も数多くおられた。

最後に1年間の成長を一人一人が述べる場面では、児童のむせび泣く声が会場に聞こえてきた。舞台の上でやりとげた達成感に包まれ、仲間と共に声を上げて泣いていたのである。この児童のむせび泣きは、この1年の個人の、そして、学年としての学びの結晶であった。

各班の発表が終わり、いよいよクライマックスのエンディングです。前半は少しつまつたので失敗かなと思いましたが、なんとか最後まで言え、「アズマイチゲの歌」も全て歌えることができました。そして、ついに群読の場面をむかえました。この時、5年生のみんなとの多くの思い出がよみがえりました。さらに、一人一人の成長を述べる時には、私は自分の言葉を言う前に、みんなの涙の中で泣いていました。自分の言葉でも思わず涙でつまっていました。そして、私は最後の最後まで、大山の自然の中での1年間のいろいろな場面を思い出していました。

全てが終わったとき、「こんな達成感を味わえてよかった」と思いました。でも、何より5年生を終えるのが悲しいと思いました。そして、もう一度こんな大きな達成感を感じたいと思いました。

＜振り返り作文より抜粋＞

○ 会場のアンケートから

ひたむきに大山の自然のことに取り組み、その学んだことを私達、観客に伝えてくれようとする、その思いに、姿に本当に感動しました。こんなに伝えたいと思うことをしっかりと科学的に分かりやすく伝えてくれた子どもたちに初めて出会いました。友達といっしょにがんばるって素晴らしいですね。大山の自然の素晴らしさもよく分かりました。私も身近な自然を大切にしていきます。

○ 保護者の言葉から

一年間、本当に頑張っているんなことを調べ、学んだ成果が3月13日に集約されていて、とても感動しました。インターネットで調べたり、ノートにまとめたりしていた姿を思い出しています。今日のこの日のことが、これからの人生にも、きっときつとつながっていくと信じています。ありがとうね！お父さんたちにもこの感動を伝えてあげたいと思いますが、この場にいたお母さんが感じたのと同じように伝えるのは難しいね。

6. 自らの生き方を考えることに つながる評価を

(1) 多様な評価で指導との一体化を図る

本実践の形成的な評価はワークシートのみならず、作文指導と関連させた「振り返り作文」を多用した。それは児童が課題に対する思いや今後の関わり方等を書きただけ書いて考えをまとめることができるし、教師も返事や対話により作文の内容を次の指導に即座に生かせるからである。また、自信やよさの発見・伸長を図るため、前述の地域や保護者の方々による外部評価や友達から見た成長を述べる相互評価も積極的に取り入れた。

私から見たB君の成長

私はこの1年、B君が一番成長したと思います。それは4月には発表が出来なくて授業中に当てられただけで泣いていたB君が、今ではその正反対で胸をはってみんなの前で大きな声で発表しているからです。その姿には、きらきらと輝いて見えます。1年間、みんなの一つの目標に向かうことで、B君の中で少しずつ成長が見られました。そして、クラスの人々と高め合うことを通してもB君は強くなっていきました。さらに、自然の中でいろんな体験をすることで、B君の顔が、いつまでも自然を守っていきたいという顔になっていて、本当にかっこよかったです。成長というものは人を輝かせるものであって、人は「がんばろう」という気持ちを強く持つことで変えられるものだということを私はB君から教わりました。

＜ワークシートより抜粋＞

(2) 数値による評価から見てきたもの

本実践では、春に5年生の総合的な学習を始めるに当たって、下記のような児童用の生活面、学習面でつけたい力の観点を映像や資料をもとに具体的に説明し、教室にも掲示しておいた。また、新たな単元を展開するたびに、つけたい力との関連を位置づけて説明し、学習の節目には5段階の数値でも自己評価を行った。春に設

●資料 4 / 数値による自己評価の項目

＜生活面＞	
1	学校生活が楽しい。
2	何事に対しても一生懸命に取り組むことができる。
3	友達と仲良く協力して活動を進めることができる。
4	失敗してもあきらめずに挑戦することができる。
5	自分の役割と責任を果たすことができる。
6	自分の考えや行動に自信をもつことができる。
7	友達の良さに気づくことができる。
8	自分から進んで活動を進めることができる。
9	自然を愛護し、命あるものを大切にすることができる。
10	地域について関心が高まってきた。
11	学級を超えて多くの友達と関わり合うことができる。
＜学習面＞	
1	計画的に学習を進めることができる。
2	解決に必要な資料を自分で探すことができる。
3	デジカメやコンピュータなどの機器を使いこなすことができる。
4	パワーポイントを使って説明することができる。
5	友達とお互いにアドバイスをすることができる。
6	学習を振り返り、成長や改善するべき点に気づくことができる。
7	自分の思いをはっきりと人前でも言うことができる。
8	表現方法を効果的に工夫することができる。
9	教科学習でも向上を目指して取り組むことができる。
10	新聞やテレビのニュース番組を見るようになった。

定した3つの指導の重点「体験を通して地域や人と関わる力」「自分の考えや思いを人に伝える力」「自分に対する自信」に関わる項目の数値は1年間で大きく伸び、児童の姿や文章による自己評

価に加え、数値からも目標は概ね達成できたと考える。

数値による評価で特に注目したいのは、総合的な学習での学びは、教科学習に向かう意欲も培ったということである。「教科学習でも向上を目指すことができる」という項目では、3月の平均値は4を超えた。総合的な学習で芽生えた「自分もやれば可以的」という自信が、苦手な学習内容でも一生懸命やれば理解できるはずだという思いを生じさせたからであろう。テストの平均点の向上に加え、私が学力向上の一環として行っている、「輝きノート」（1ページあたり532字の自主的に家庭で学習を進めるノート）のページ数も年間で平均500ページを越えた。また、漢字検定にも全員が6級に合格することができた。

さらに担任としてうれしいことは、3月の「学校が楽しい」の平均値が5に近く、この数値は、自分に自信をもち、学校で学ぶ楽しさを実感した児童が増えたことの表れでもあると考えている。欠席も1年間を通じてほとんどなく107日間、全員が連続出席という学年の新記録も作った。

地域の特色を生かした総合的な学習の時間を、学びの動機付けを重視して展開することにより、児童はフェスタを成功させたいという目的意識を高め、意欲的に学習活動を進めることができた。その結果、1年間の集大成としてのフェスタで友達と力を合わせて学んだことを地域の方々の前で堂々と胸を張って発表し、評価されることで、学校での学びが社会の中でどう生きてくるのかも実感できたのではと思う。

7. カリキュラムの継続と発展

（1）児童の夢がかなう日

児童が6年生に進級後は、カリキュラムをさらに継続、発展させて、秋の開園に向けて県立丹波並木道中央公園のビオトープにさらに手を加えた。そして、6月には、予想もしていなかった出来事がおこった。それはカスミサンショウウオ等の絶滅の心配のある生き物の産卵に続いて、ビオトープのクヌギの木にモリアオガエルが卵を



●写真 8 / 多くの方々の協力でついに完成

産みつけたのである。人工の池に希少な生き物たちが卵を産み付けるには数年はかかるであろうと思っていただけに、児童はビオトープの前で大喜びした。

その喜びをエネルギーに、夏には看板やベンチ作り等の仕上げの作業を行った。その時には、昨年度に交流を深めた大山地区自治会長会などの地域の方々、延べ約 50 名が自主的に作業に参加してくださった。おかげで作業ははかどり、ビオトープは開園の直前についに完成した。その名前は水面に映る緑が美しいため「みどりの池」と名づけられた。

(2)「山よ 緑よ ふるさとよ」

10 月の公園の開園式典にも児童は参画し、児童が育てたヒラタクワガタを兵庫県知事と自然に帰すセレモニーを行ったり、来場者に向けてビオトープ観察会や発表会を開いたりした。さらに公園を彩るために、地域の自然をモチーフにして図工の時間に作り上げたステンドグラス「山よ 緑よ ふるさとよ」を公園に寄贈した。そこには地域のシンボルであるアズマイチゲや国の天然記念物の千年モミ等が描かれている。今も園内の施設では、木漏れ日が畳一畳ほどもあるステンドグラスを鮮やかに浮き上がらせ、来場者に児童の自然を大切にする気持ちを伝えている。なお、この一連の学習は地域の環境保全に貢献したとして、兵庫県知事より表彰を受けた。



●写真 9 / 地域の自然をテーマにした作品

おわりに

この学習を通して培った、児童の環境保全へ積極的な態度や表現力の向上、人としての成長を目の当たりにし、教科や道徳と関連させた総合的な学習がもつ可能性の大きさを改めて認識することができた。今後も児童や地域の実態を踏まえ、学校全体で研修を積み重ねて様々な課題を乗り越え、児童の未来を支える「生きる力」を育むために、地域の特色を生かした魅力ある授業づくりに邁進していきたい。

最後に児童の学習によって地域が活性化したことを示す大山校区自治会長さんからの手紙を紹介する。地域の特色を生かした総合的な学習は、児童のみならず、地域をも変える力を持つのである。

大山校区自治会長さんからの手紙 (一部抜粋)

みなさんのおかげで多くのことを学び、大山の良さや課題を再認識しました。遅まきながらも、大人も負けずに大山の自然を守らなければとの思いの人が出てきています。

これまで、自然に関心を示さなかった方も、公民館での発表を聞いたことで、地域の素晴らしい自然を再認識し、山野草などの集落の自然を守ろう、育もうとする気運が徐々に高まっています。山野草の保護育成は、これからの集落づくりの柱の一つにしたいと話しています。自治会が中心となり、兵庫県の助成を受けて、見学される方への山野草の説明板と保護育成への協力や注意事項などを表した看板を徐々に整備しています。(中略) 元気はつらつとした「大山っ子」の成長を、「ふるさとの緑の山々」とともに見守っています。がんばれ、大山っ子。